

## 「燈燈無尽（とうとうむじん）」

校長 香山 和昭

師走の足音が聞こえ始めると同時に目に見えて朝夕に肌寒さを覚え、秋の深まりを感じる今日この頃となりました。早いもので2学期も後半に入り、今年も残すところ2か月となりました。

去る10月19日(土)に、蓮田市総合文化会館（ハストピア）で合唱祭が実施されました。昨年度より単学級化を見据えてクラス合唱から学年合唱となり、コンクール形式ではなく、表彰はそれぞれの学年合唱のよさを称える賞を授与しています。合唱の本格的な練習は9月からスタートしました。新人戦の時期とも重なり、なかなか思うように歌えない場面も見られましたが、限られた時間の中、どの学年も一生懸命に練習に励んでいました。1年生から3年生が互いの合唱を聴き合う全体練習を経て一段とレベルが上がりました。日を追うごとに完成していく歌声を聞いて、改めて「平野中の生徒たちはすごいな。」と感じました。そして、合唱祭当日、まずは1年生の歌声に驚き、2年生の歌声に震えが走りました。学年が上がるにつれ歌声に厚みが増してきており、3年学年合唱とフィナーレを飾った全校合唱『あすという日が』には、感動で涙が出ました。よい歌は、心がこもっていなければ歌えません。人が感動するのは、歌に感動することはもちろんですが、それを作り上げている人の心に心が動かされているのだと思います。さらに合唱となると人とのかかわりの中で創り上げてきますから、その感動はより大きなものになります。この日はそんな人と人との心をつくる一日であり、平野中学校に確たる伝統、文化が息づいていることを感じ取った一日でした。お越しいただいた多くの保護者の皆様、地域の皆様、ありがとうございました。

さて、「燈燈無尽（とうとうむじん）」という言葉があります。これは大乘仏教の初期の経典にある言葉です。「燈」という字は、灯台の「灯」という字の旧字体で「ともしび」を表しています。ろうそく一本だけの灯火では、やがて燃え尽きてしまいますが、その灯火を何人かの人に次々に移していけば、明るい光となってその場を照らし、灯火は尽きることがないという教えです。一人だけでは踏み出せないことでも、その灯火をあなたの隣の人に語りかけ灯してみてください。きっと光は大きくなり輝きを増してくれるでしょう。小さな灯火が、次々と広がり始め、大きな光となって輝き出します。一人ではできないことでも、力を合わせれば大きな力となって動き出すことができるはずです。学校はたくさんの生徒が力を合わせて生活するところです。今回の合唱祭の取り組みでは灯火が校内のあちらこちらで輝きだしたとを感じるようになりました。保護者の皆様、地域の皆様、これからも生徒一人一人が灯火を広げて参ります。変わらぬ御支援、御協力をお願いいたします。